

KODAK

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

LICENSED PRODUCT

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Black

3/Color

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

九十上

菟玖波集



• 0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

20

1

2

3



菟玖波集卷第九

戀連歌上

女御おさきしきりかきりよき女の
いと来きり物おもひあきりわきり
なりを御覧しきり

延喜御製

源公忠朝臣

おもひ覺心のちいけり縁とも



倉持印

時雨ちりしに非る月分

常盤井

入道
前太政大臣

物に事ふ神も色をせ初る
ふくり夜もさかかろ家い初る

夢窓国師

待しんとふ人をもい

けふいつともなけく

源敦有朝臣

おぬきも雨あけの慰

身入と床はけしき秋乃風

源家長朝臣

悲せん人乃公を

後多の院小なるは連

人のいかなるを

西園寺入道太政大臣

おぬい出かきふ

くき人と悲さぬを思ふ

良阿法師

涙のやうな玉の井の水

おのぬ契りたる枕の夢

源兼茂

おもひけらかなるをのふかきき

あふせをさす夢たるいぢ

周阿法師

涙川身をうき草花なり

前方納言為家

悲しきも同じ思ひる世中

おのころうさきふかき世を思ふ

後二位行家

相坂をたうやうに家園なり

さうもがけをいぬ人乃知

二子法親王

しゝ乃幸歸るるはも知るる
神々々神々々法ある玉に

関白前左大臣

たふふふやを洞とて法を
白ともあやしき人なりとん

前右細言言氏

世より子々子々名に我をぬき
たふふ我をきとるは法

救済法

系一能婦公をぬきあれあな
に能くぬきぬき川と成る

前右細言言氏

系一能婦公をぬきあれあな
に能くぬきぬき川と成る

後多羽院小寺は法蓮の寺なり
三字中略四字と下界の秘物を
荒次師範や法蓮寺秘物を示す

前中細言字家

せうまぬこゝいゝりやまねん

うまき衣のせふがはる

信實教臣

清く免とも下るる行かゝるをい

住より松ぞくのゝゝいもかく

以世ハ道きる臣

たけりる清くの袖ぬす覧

多しうつゝぬ衣おまの居よ

後深州院少将田侍

あけゝゝぬ人の玉れいゝりや

後嵯峨院御製

かほきぬ道るも一能閑毛と

おぼとつゝそとるも能閑毛と

冷泉前右政大臣

かゝるゝ人のあはれゝゝ

人小う男牙様つくもみ

謹阿法沙

日たむひつふそくをひきもか
いりぢぢ夜半、枕さめし

善阿法沙

下々家ぢぢふ小神もきぬし
月をきぢぢふ似ぬわ、奈

信昭法沙

かぢぢ人をふえーと思ふ夜は
たもひうはといふぢぢせん

前ち細言如氏

人めをきぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
きつてもぢぢぢぢ人やうえ

後宇多院御製

易婦とてぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

とぢぢぢ

忠属教信

多能ハ聲ハおをなともたあー
をーとああ 名年うき多とじ

関白前左大臣

多能婦ハ下やあーハ抑いとを
つむとあれとあは源りあ

信實朝臣

かくはハ心のうちやあーいまん
つめともあひじるいく 禮祿

從二位行家

元ニ多たきおといむもあきれ祿
をのほろねハやろ洞子る

左多能務直義

うき心を多いそんおもー連
名のうーいーや人をねむきし

善阿法師

多能婦ハ下やあーハ抑いとを

帰るき心のたぐをきし

権少佐部持家

みちのくはなれぬとももきし

いさるのけきさかあきふ舟

旅ち細きお家

たもいふりあかきを知りや

うふ^そい^ちらの未^いまじも

^飛
^延

六條内大臣

はし^るみ^る胸のい^るさ^るわ

秋くあきそのおるる

西園寺入道太政大臣

ころ神子一行涙きふ

ぬれ^るう^も様神の露

今上御製

うきふ^るあ^る神子あ^る心^る

お^るあ^るお^るる^るあ^るは^る

後深州院少将内侍

いふは公を人小かけきめり
おもひぬる小浪とてきり

延二位行家

いふは公を人小かけきめり
建長六年五節の頃有心と云ふ
連歌付公家

あせきぬはき様と称さる

常盤井入道左大臣

玉はき様と称さる
いふは公を人小かけきめり

京月法師

いふは公を人小かけきめり
むかしはき様と称さる

十佛法師

あふはき様と称さる

うきがらうー千人とあやふむ

前々細言わ氏

悪うはきうが諸家たの王

其家きく四ろ緒のや

授海法沙

公ひく人のむあめが名をひく

ホモ^かあせこが下のうきもが

導巻法沙

君ううめひくを思ひをあらものと

女那男那あうやうやと

良阿法沙

いさあきういさあういさもあういさ

後多お院小なるる白馬の城おまが

たもひあーあうまがあらを尋ま

法二位家澄

あふふいふあふ市人もな

おはれりある心よりこぞまゐりてはれ

後宇多院御製

清くあき人をたもひ世あはれ

と侍ふ 前ち細言実教

おの清くき身のたぐひはきふ

と侍ふ 前ち細言経鑑

い清くなりぬこぞあもこのれ

神はと契りこも頼まは

名さへありそすれまゝの二れの家

日々かゝるやまけといまし

安倍系時

思ひ小あゝ心もたきものを

笑ふもきふるをやりみ小

善阿清沙

悲し心も同くことあきふ

この心あきふ契りありはあき

周遍法沙

いまあゝとまゝこのまゝといふまゝ
まゝはあのかゝるをまゝにまゝ

後深州院希田侍

さかき物や思ひは晩

同院少将田侍

あゝおまのまゝいふまゝと
ありふたふもおもひまゝ

源親光

あゝがいのまゝを人ふ先まゝ
まゝのまゝにまゝをいふまゝ

勝原則俊朝臣

あゝあゝのまゝにまゝのみまゝ
野澤乃祢せまゝにまゝにまゝ

証二位家隆

あゝあゝのまゝにまゝをいふまゝ

元享元年十月龜山宮主親王
人うけをたぐふ御常の中うに
おき朝臣

契りむあひさすめらとあさや
かあさうは後を思ふは受もなし

さう上人

音法を聞てりある契あえ
いくむううを恨とさうあうん

権律師賢海

後乃ちきうい、あかうさあ子
むあひー後もあえとたりはう

前う初言あ世

言能あもかり果ある契ううい
あ暦四年七う七うあ
野中能清あきう結あなり

後醍醐院御製

賢くをきくも能く公を思ひ出さ
かのほろろ行くふ道もなりぬ

前右記言経述

かゝる多き能く賢くなりぬ人
正和四年五ふ依え度る額連殿
ふ宵能夜半とや更ふ色

按宗使資朝

さう小我いつなりぬ賢くしふ

宝治元年いふ十五夜常盤井殿
る額連殿

むあなうとけぬさうなり能く

ふさうい人も軒端のちきりとさう

うきさおもひを誰か告まし

常盤井入道 前太政大臣

賢くあはれ余取ふいふあま小き
人か賢くのいふさつきぬは

亦ち細言多氏

多系も羽をたぐ婦りかへあふ
むあ婦水子そ人もみあは

二品法親王

いふ井のありぬ智小神ぬまを
人小系思ひふくくきものを

関白左大臣

さきね世にねよいう誓正し

夢ねまうく年かあむ月あけ

救海法沙

あうくね誓いうふとなむ連を

二年はきうを山うくのうふ

二膳系秀能

まうみ誓りし頃あきぬ家

いふくの誓をうも思ふを

左近中将義詮

うきぢのう様々のむ中一の奈

其の頃法皇寺より関白より顔書紙に

夢能きくくをいふと神し神

導 参法所

こぬ時人といふく妙契りある

大方の秋乃ちいひの夕霞年

後深叶院辨四侍

むあ婦契りをいふのまん

と侍る年

華山院前右大臣

下帯能きくあひてもかいかき年

法もくつとくぬ月りつとく

山階入道前左大臣

たもあふ人のこも能きふのこおわ

と侍る年

冷泉院前右大臣

おのこいふと神をぬく一法

おれの後夢もくくぬくあけふ

前中納言有光

むき婦 契りけ 浅き世もくし

関白家万額重なり

契りのくき冬もくもこす

膳原家中朝臣

人をきけ 其夜の中い 祢ぬものを

詞の著い 様さうなりし 契りしと

前中納言有光

けりき 時冬おとつ 進もなり

多勢む 公小いつ たりもなり

陸園法師

きけ 時や人のくきを も忘るる人

なりと 引きさくく 公のいきなり

平時卿

偶と にもくきく ありあふ へきなり

ゆかりの 情 かりにき

源忠長

こぬ人のあはれふくをいひかへ
いはとなく身小入風いきく物を

膳原俊朝卿臣

いふおのきき人の悪いき

別うもたがうき世の口なりき

源氏光

おのいあふことけき命ふきき

ねふいふきあふうとくき

丹治政職

あきけふあまーやと人をきくがふ

たけ身小くえと風を吹くこ

膳原親尚

うき夕あふ秋がけ人きくえ

夕暮とけめーことも習物を

膳原長春

新片人いり年あせと秋ふを

くき心なれひくを秋

神真嗣

月遅く人もきく夜い更と

泪をきくそ秋神乃露

良阿法師

き法時の心も月の影ふけさ

落くきあつて我意の閑守

救済法師

下ひも秋夕くそ秋かきさ

秋ふ風やかきさかふん

源為宣親臣

かき法時の秋の夕ふ秋ものを

別と秋きくひくを秋ふかき

兼胤法親王

来ぬを秋秋^{クニ}をく法と秋ふ

いほりやかくや玉れ

道尊法師

こぬふく音ほまきけいなきん

か^{ハナミ}ふきーい同ーまのはこ

二品法親王

此著もきくゆ乃のき乃

むくいゝあふあふきけ

最上僧侶後

我れき人ゝほをきくはん

タふかりをきくあはき

源三郎

別まも待もを聞あふ

一色風を松千ぬくこ

性蓮法師

今こむの夕たのあをきくは

ろきろく夕い風を秋たは

救済法

くき人のこぬおつけとも月まらそ

やまけ月の出やぬちふ

源秀賢

さうとも結はるがふ夜に更さ

くちぬ家なりもぢき思ひか

勝原範高

聞りけりや結ふは夜の鐘の聲

軒端よりあさかす系

永ち細言ぬ氏

一筋小来つき宵や頼むらそ

後より候ふなりは家まがふ

くもけりあもあひさふ

勝原秀能

尋ぬつき人をや今もまはる風

まゝきこふ家まはるおの鐘

法眼行親

智く祢は待へきもきぬ身小
おもひぬ人乃かゝの無き

平景右

おはまほきも心持かゝし
来ぬ人の智く思ふに涙あき

妙智法師

待く祢ともかを夕小我たふは

くき身小思は遠あき人も心小

頼玄法師

き夜もぬけぬる月
いひ—智くを口あきおいせん

前中卿言上忠

夕暮れくもけやふきく我は家
えといひ人の情を待ひこる

按察使賢朝

ゆけ行くの色もくらえー
かゝめを多そーりぬやゝぬは
導 生 法 師
まはるゝ小人をあしな夕言
ゆゝゝのゝそゝきゝ言こゝ
人小まゝゝゝゝゝゝゝゝ

菟玖波集卷第十

戀連歌中

月へまゝせぬゝゝゝゝゝゝゝゝ
せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

廣幡御息所

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゆゝゝ 天曆御製

ぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
建永四年九月に常盤井左政大臣

ありぬ乃湯泉しく人々を遊ばしめ
今夜もきくやい祢るふせん

前右多衛門お教

たの免るもおひいぬ人いつりり

こゝ神をよゝめり月庭の菊

前右細言お教

うははふ人をおふききもなり

みー人の忘らふきふ夕の空

華忍清沙

おゝ神一時をたもひ出はる

人々にもひく歌ふおひきや

順覚清沙

と音きく煙火消えし物ものを

ぬけし神をも千はひきとちき

前右細言お教

またふいの更きやうを別道とせ

入相を結ぶぬ夕もにふー夢
夕那の別をふ結う夕那

救済法沙

まふもえ後の夕那いさしうに
うあ結ぬものい人のに毛け

前矢多議た良

月結毛契子似うは夕ふさ

神の時多きおほやれくらん

導巻法沙

結のうを法もあきいか紙人うき
ひく公にきうき人ああ結

木鉄法沙

おうはつき、書をいつとくきき
うき身お人、我いつもききき

善阿法沙

まゝに年々ふふもいふるちと
悪こひる君ふ智人と思ふ哉

導生法

くらね きて まけとてや
うきやうね 公たねらき

勝原宗篤

備とにもいさゝか見えも終し
中室のちね 秋の夜の月

阿法師

人もいふ身もいふ更なる
五節ね頃すかりんといひり

雨ふね戸を月より先ふ出せん
と女房りけりいふ

實方朝臣

あー見ね 里々人やねと
西和四年五月依見えありて
そやとまらるる昔の久き

伏見院御製

くつきとふふ又やまね
くはれふをくくはれん

後多羽院御製

今えとふく月
いまくくぬきききき

前多羽院御製

住くくま月と
住くくま月と

とけり
後深州院御製

あや仇波
あや仇波

実く
実く

勝原高秀

くき人を結とせ
くき人を結とせ

そもく
そもく

勝原氏秀

おかし
おかし

むあぬみ小きうきもなし

信昭法師

いさゝけの松と申いおとけを
女のうきとせはるる不書
ふけをうき
安人の涙とぬえり
とるまいたるはるのうき
ついま川のあきと書はる

業平朝臣

まゝ 雪板の閑もこえなり

さうけもと公のうきを新々

永方卿家

見一 夜能多小思いあはせ

西和四年五月伏見院戸額書小

をさきもちうき中とねもつ

伏見院御製

あうき公もさあき知ぬ

文和四年十二月前大僧正賢俊法皇

仲さうけ ねるうき

関白左大臣

日々も人乃枕ふて物を

七夕いつ乃朝平別後人

稱阿法沙

多まゝ 寄ふ平 暫りあくるき

別乃 うち平 関のあきし

救海法沙

あふまゝ 夜の更なるもさるるき

人をうつまゝ 夢に別路

関守も公にゆくをゆふ

系もあゝぬ 旅乃ゆくまゝ

三勝原親秀

あゝ 公さるる 夢路あき

我れ 夢に 髪乃あゝぬ

神為清

鳥お玉 夢に 夢さるる

新人ハ夢見キテ我々のめし

善阿法沙

金々々後モチをおもへや

ぬ々袂子月にお祈り

南佛法沙

あひさや時もはるに明ぬ

たふふ中少を備もな

十佛法沙

神乃ち取る夜の少に人の来を

かき取りき能ちのいさし

関白左大臣

一夜かきとも思ひ出乃夢

たもけふも志をいせ

源宗氏

恵一きややうく祢見小半ぬ

みふもかひい後ハ能ぬ

菅原長綱朝臣

かろくちね夢のうきさ

思婦人かききふくもたし

盛宣法沙

祢ぬ夜ふく夢をうきさ

むあ婦人かききふくもたし

三勝原助義

うき中やうきも夢かき

見せやちねの夢を枕を

導巻法沙

誰とくかき思ふかき

うき中かき思ふかき

二不法親王

ちかき夢を思ふかき

うき中かき思ふかき

救済法沙

祢々かゝ上あは神もも妙なり

おももあつあき契うな

并意法沙

名おあは夢なりいおハ更と

神のうへさ、くもあうう平

勝原冬隆朝臣

人乃こをぬくあを月ふくくちや

かまぐくきあ夢現なる

尊雄法沙

夜毎あや神の涙をうきぬ人

恨ハ夢なり別あはあは

権律師道田

い法をかくるあきぬすき衣

つまなくあきき行とくや

昌信法沙

五明の月新頃ふ能契——年

ながき夜の更なる人いふを

源信詮

まゝむと称の夢 能く枕
わくわく 夜半の夢言もは

因阿法師

夢まゝも笑あは人のうらな
遠くおと聞くかや夢ぬらん

三勝原長恭

涙乃る能くきぬも
いふもし面影もともめを

惟系親孝

夢能く契りよくはるも
重ぬ家おひるを称のまよこも

前右衛門氏忠

おるふふふと人も
あふふふきぬ家おのふも

良心法沙

夢小くは醒見あきふ夢小く

道生法沙

洞千のつ夢ろくきえし

伊勢洞ろくを身小きいふ

法眼即證

現 4 夢小毛夢小かりくは

契ろくあはく夢小ききいふ

法印定法

夢小ふひや夢小をんせはくき

こくひをろくや枕さくめん

前中細言定家

夢小のろく夢小をんせはくき

さくろく夢小の直路もろくき

後膳以家院御製

やゝ能くはるる祢人のゝも奈

天曆の市時宵々くくぬるも

けれり

滋野内侍

夢小あふ夢き人やは終りん
ゆゑる心行や行ふあや

関白左大臣

ちゝにとよあ通ひ飯の人乃夢

何と契りる未を終るまじ

導言法師

あふ夜ふ夢るや夢小半ぬえ
おもひぬる夢きまゝとくま

救海法師

身小入夢るき人とも夢やに
順覚法師

物にも夢る夢夜ふも明やを

石上如多野中の志にす

前々細言為氏

又ー仲乃たもい出も一の奈

ふまーといひ情をこの事

信實朝臣

ちのちくも思ひいつやそたもふ一の奈

明やそ祿免の後もたのき夜小

後光明照院 前関白
左大臣

多をいくゝひまゝのさぬん

仲ふもきさうふをな一

関白左大臣

神子き涙や月をぬるあ覧

涙の神をいつも秋たぬ

二子清親王

月うそ人の子きをも志まてや

智りも末を思ひさうな

大江成種

我行も人の帰るも多路小亭

いふー一人はきても帰るは

了阿法沙

月小に我れもふく夜に歸るは

名残る涙まゝ神の法也

平忠時

月の夜をあらさる人も帰る人

秋に我れいふく夜に歸るは

大中臣経有

うきこゝろを思ひてうきこゝろを思ひて

うきこゝろを思ひてうきこゝろを思ひて

村畠清沙

まきくも人の名残る月を思ひて

ゆふさひひは家人を思ひてゆふさひひは家人を思ひて
おをさくまゝを思ひておをさくまゝを思ひて
おをさくまゝを思ひておをさくまゝを思ひて

うゝ人あゝに

人かゝゝにたいまゑたのきゝち

良岑宗貞

多小見ゆやね 祢を色小見家

文和四年乙未之家の子句連歌平

夜寒き風のみは雨を色

宿ぬ^{。多の}秋千人を見こる

身いひた秋もぬる川がの亀

相阿清沙

たゝゝに神子宿なるゝに

おやゆゑくちと神いぬまゝり

左近中務義詮

暁の鐘にきき多神より終ちあ連

結おひぬる川の思ひいゝあゝん

源高朝

夕く終るゝのき曉るゝを

奈を伸乃ちやきく

救済法沙

多あひまきく新あを記をよ

中うかれりあ子夕曙

源氏頼

別きも待も心身小入る

今望月うき味も奈し

権少僧部永運

涙あふ神のまじりかきく水

あきく夜後の衣るきり

関白前大臣

別きをあらまやうゆり

おの名おりやふい

藤原光遠

おもひふかきく人を推お

たふきかきく

隆祐朝臣

きぬくろ涙をふもあつことや

涙をぬはる月

中納言忠嗣

別は清人乃まゝく示祢し

人ふぬ見せぬ今如の玉

源高定朝臣

あはれと夢の余波ふまゝし

くろく夢々ぬかきとあり

藤原家尹朝臣

あはれもあはれくつゝき

あはれあはれをさへきか

権僧正良瑜

あはれ人乃別をふあはれ

高階重成

あはれあはれを涙のうらふ

聞せし

涙、流、る、夜、ま、る、あ、る、人

兼、意、法、河

冬、も、小、ぢ、く、人、の、石、城、の、冬、の、言、ふ、
ひ、と、く、な、い、あ、秋、風、の、身、の、入、る

高、階、重、政

冬、の、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、
と、冬、の、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、

平、宣、時

冬、の、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、
夜、の、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、

丹、治、政、識

一、冬、も、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、
冬、も、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、

二、冬、も、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、

冬、の、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、
月、の、言、ふ、く、れ、あ、る、言、ふ、冬、も、ふ、

妙智法師

其より水ききり夢小かきぬ家
我よりき人ききり一とけききり

權律師宣還

別速能ききり閑守もか

ききききりきききりきききり

華意法師

如き夜を明やききり別速

かききききりきききりきききり

救海法師

別速もききりぬ毛のききり

きききききりきききりきききり

龍子細言法師

人きききり別速もききり

きききききりきききりきききり

二子法師親王

たをうきくは公志し

性道法師

別道ふん後きたのもたけ

ぬきくくき然ふ

救海法師

まきあはしるちぬふもあ

いまヤミふ小祿をやちく

常曉法師

曉のきあはきくく

人わきくは公法く

源頼基

まきく知ぬ別小夜の

かき紫のちをきく

阿法師

別はきく亦夕昏のきく

破ハ多く後のちきく

卜部兼前

おふい法となくまゝ別を尋

うふひちの結ひ繋あな

善阿法師

あふに解も後をい知ぬまゝと

かりをけ小野のうゝえーきか

隆祐朝臣

著意おれふもむなきあを

各むまぬあゝもふい通ぬ

京月法師

あゝぬ別を去の婦をうと

晴こぬ身をしをい法

永吉細言お氏

名能言いあふ夜のうふだーそ

晴おきの道いおくらし

後二條院御製

きくいとも人めを思ふ 帰る

こゝからい路の関守いかに

後膳殿内侍

夜をく のうらうらなる 夢をうと

ふし けり多 花を友と

福光園 入道関白
左大臣

別を路の明ゆく 旅の 夢をうと

夢をうと 夢をうと 夢をうと

後膳殿御製

たふふふ月をかくと 花をうと

七加曆四年ゆ 花をうと

花をうと やすくと 花をうと

きぬくの 別をかくと 花をうと

花をうと 花をうと 花をうと

やとやと 花をうと

誰々 花をうと 花をうと

女のもくくあつき乃陸きくはる

小一條院

あつはきのかみのききききききき

ふく人不知

りき入相とねもききききき

元亨元年 龜山天皇親幸小

伊のこまら明乃はきき

後宇多院御製

いふはく小人ははききききき

に禮やききききききき

関白大臣

ききききききききききき

お中々ききききききき

権律師宣達

ききききききききききき

跡にききききききききき

三勝原資歌

たけふきき夜深ふ山依りて
すゝ寝のまゝ寝る涙

周阿清沙

月も入ひも別をける夜中
あゝをのこすあゝまゝ

三島木田守三

伊をるふあゝ夜に照る

毛連ぬあゝに我は名をいさ

賢阿清沙

別をけるあゝ思ふ夜に照る
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

三善仲久

玉れもあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

権大僧部系忠

左云端緒直發

か
つ
し
る
を
跡
の
お
も
ひ

勝原家尹朝臣

玉章をうせりききり書ちて

患一やうなるに
増え

木
結
法
沙

永王叔元人乃玉璫

中井
於
乃
秋
至
一
足

丹波忠岑朝臣

玉に雪風の多き子きく事ふ
まゝを子あはぬ所のなふ

二子法親王

身乃新々や新玉章も書く事

習うき日けく新ふ人もあし

前大僧正賢俊

儒や文新初年きし家ら世

ぬき心新色をいふや

前中納言ち光

知乃筆新あきと新ふの事

思ふあら余所の誰もせし

素還法師

こびーと書は人乃玉章

まゝ立帰はき新る事

寂忍法師

玉れきこあふあふかふは

新ふし佛年のことあふさる事

日嘉法師

あまきあひかき水くきの跡

引あつてを撰るるに孝

藤原助廣

一筆のいほりやふた玉はふ
いふぬ心のおくそふにまね

左近少将善盛

玉章初いぢくはふかきうへ
まゐるをきくも所ふぢ

関白前大臣

玉札を洞年書きて文字もあ
洞年おむつ神をふせむや

救済法沙

玉札よりあきあつをよむと
むあふ婦實れがふとふき

二品法親王

ふまはさのやふふにぬ時ふ
うへまへも初るにふり

藤原助夏

くまき子いほりし誠之いふき
人あふぬ思ひやうもふかた

源成賢朝臣

烟をあふき神乃くきも乃
流るや心のくきと神あふ

導子巻法師

おもひ涙を川乃あふき

こふ思ひきしとあひあふき

前子細言女氏

泪の川乃身を流くー流く

西和四年五と伏見局のり顔小

くーあふきとてし年あふ小

前子細言女氏

おもふ子あふきとあふき
人の心や神子あふき

二品法親王

おをいのれ紫お末のうゝ免縄
かゝ圓の杜ろちあかきしおろろ

後醍醐院御製

いのろろけぬおを清き
かゝはおきと紫をく免

権中納言公雄

住ち―お神おのゝぬものろろ

寶治元年いゝ十五夜常盤井屋
ろ顔おろろ

みくろわろ野中お清お理と

山階入道き大任

ろこおた―ろれおれををかお
かゝゝの鏡おもこのろろ

民部卿お勝

おおろおろろろろろろろろ
いとせろろろろろろろろ

後醍醐天皇御製

多うくはせとけをやうま

かしの免とのやうをうま

西園寺入道右大臣

雲衣あきいの小田をうま

池ふろははははは

救済法

かく洞の山平はあきい

見はふいあきい

前右左衛門少輔

あきい形見あきい

あきいあきい

藤原高直

あきいあきい

あきいあきい

権少僧部主事

小車よりめくらを望し一い考ふる
みきやふともとるをふじ

二橋原偏馬

梓弓引くるときも能く
弓引くときめきうきうか

救済法沙

さうはき能くもたふといふ
言あははきもふといふに

惟系親孝

見う時毛亦うぬ時もちうさ
如き扇もきこぬなり龜

權僧正良瑜

夕空の花の情もふあらし
むあひや接んの井水

後宇多院御製

人心法を驚くをねにしふと係

最方細言公明

我子の子ーちや涙を〜

やうと〜あゝ夢のたも〜

権方細言公明

涙をも人のうも〜あゝちや

かゝ枝〜あゝあゝのあゝ

後深州院少将内侍

人心たもい思ひぬ色〜人

と情ふ

最方細言公明

涙を〜月も〜

正和四年五月伏見院万額事

さうも〜情ふ〜

伏見院御製

我子の子ーちや涙を〜

あゝ先の世のむくひも〜

たけ〜あゝあゝのあゝ

善くもいかに法をたすやをうふん

善阿法師

たのしみなりと人もこれしき

あきなり一子獨りもあき健ぬ

道生法師

きくあきしき書ふさしき

くくく人なり

從二位為成

法をきくやをあやしくおとふん

おともきくく人果ぬ中なり

忠房親王

見まともくやまふくき橋

目をひき多く法をいかにしき

道孝法師

おのなり称ふし身おとたえま

仲い心の毛乃きくく

寂意法沙

人ニ我人平に法を言ふは
心空余取らざるにけり

藤原新廣

身ニ我あまふ人にも法を
祇覺をふるは廣の心

源公為

とき時をふも心の寂を

おもふにけりや法を

寂海法沙

我ふとき人のありも
いふは道ふにけり

素阿法沙

我ふにけりや法を
かゝ思ふにけり

藤原貞直

人ろゝめろろろ一先の世ろろ一

あまね衣や子以時もなき

小槻景實

まゝ我が歌中お尋ふぬ恨おと

ろろにえ後をろろろ一せに

権律師田忠

等閑のかろろ我人のろろも一

おろろ一泪の何とおはろろ人

前ち納言三氏

ろきろろろあも心ろろかろろろ一

くろろろろろろろろろろろ

権少僧都永運

ろき人ねあろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろ

村我法沙

人ろろろろろろろろろろろろろ

おぼもくきぬきぬのうらこのせ

後深州院系侍

かつふさねもおきふ 神女連さ

三字中略四字上下略 来る

ぢぢぢりふぢぢぢりおのきき柱

前中細言

くさあしすしのふゆもあししち

くさあふふ人おぢぢぢぢぢぢぢ

従二位家隆

身いかくきあきいあー乃毛

公くぢぢぢぢ里をくきききき

勝原秀能

人をあふいのくきけくも

風のつふふもぬふぬふ

儒弁法沙

人心那のふふあふふ人

身のうさを思ひあはれにふせむ

良阿法師

健る人をまゝにせしむるは

うきふきうきふきの世なり

信原信藏

かゝる人のうさをなすは

是れ世の世の世なり

兼胤法師親王

いまだくおはれはるるぬを

うき名もあらわらざる

救海法師

世をのびては世の夕陽

うゝ野の海を末のうら

平宗行

あゝもせの中なるを

身をなほふは我の身なり

大江盛名

神をあらとあらぬゝるを涙とす

月を海にあらとぬゝるを涙とす

法眼をみる

人のききや秋をいふは

はるき人ふも思ひやいふ

寛胤法師

いづれか身をあらぬ秋の風

海にあらふふも能く

関白藤原大臣

人かへきふも水ふも入ぬ

きくともかをぬゝ神武

後深州院少将内侍

左よりききけききききき

ねいふいふいふいふいふ

左近中将家教

はるるありし二我をこひし人

旧一世のや契成りし世

照海法師

あふふふ知る寸なりし命を

むあ婦契りのさきの世なり

前中細言うきあ

夕ふのさふき宿のちあふは

おもきもの月ながむるを

二品法師

前身の秋はこゝろのうきあ

あふふふ知る寸なりし命を

前中細言うきあ

人ふふもはるるありし人

ふあふふ知る寸なりし命を

前中細言うきあ

くねをふふ知る寸なりし命を

十佛法沙

之世々々人毛抑をわ思いまし
獨まじ垣をふ這へはききら

播磨秀能

多しぬるのふ人毛うくや
競婦がの公を毛え

前古細言為家

悪しきもつゝきもたかー涙小る

たのむおよむお世を心小る

後深中院無内侍

こゝ元結乃ふふむもた

山の端遠き在明乃月

冷泉太政大臣

難面毛誰々仲をぬくむん

五くくふのおふ聞ふはきき

信照法沙

かゝくぬまゝにうゝもたし

ふふぢいふふぢいふふぢい

導言法師

ふふぢいふふぢいふふぢい

ふふぢいふふぢいふふぢい

救済法師

ふふぢいふふぢいふふぢい

